

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸  
2022年度 第1回 教育連携委員会 次第

日時：2022年5月11日（水）10:00～11:30

場所：オンライン会議（ZOOM）

1 開会

- 1) 委員長・副委員長挨拶
- 2) 委員紹介 (資料1)

2 報告事項

- 1) 大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期（2022～2026）について (資料2)
- 2) 事業委員会申し合わせについて (資料3)
- 3) 2022年度単位互換事業・履修申込状況について (資料4)
- 4) その他

3 協議事項

- 1) 2022年度事業計画（詳細）・予算について (資料5)
- 2) 教育連携委員会の運営について (資料6)
- 3) 単位互換事業について (資料7)
- 4) 多様な学修機会の提供について  
・公開講座等の開放について (資料8)  
・「大学eラーニング協議会（UeLA）共通基盤教育システム」試行運用について (資料9)
- 5) その他

4 連絡事項

定時総会 日時：6月10日（金）10:00～11:15

5 意見交換

6 閉会

以上

<資料一覧>

資料1：2022年度教育連携委員会名簿

資料2：大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期（2022～2026）

資料3：事業委員会申し合わせ

資料4：2022年度単位互換事業・履修申込状況

資料5：教育連携委員会 事業計画（詳細）・予算（案）

資料6：教育連携委員会の運営について

資料7-1：単位互換事業について

資料7-2：資料7-2 2022年度単位互換事業マニュアル フローチャート

資料7-3：2022年度単位互換事業マニュアル（大学用）

資料7-4：2022年度単位互換事業マニュアル（学生用）

資料7-5：2021年度単位互換事業受講者事後アンケート

資料 8 : コンソ加盟校 公開講座等 情報提供フォーム (案)

資料 9 : 大学 e ラーニング協議会 (Uela) 共通基盤教育システムについて

以上

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期  
(2022年度～2026年度)

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期(2017年4月1日～2022年3月31日)における取組内容とその成果を継承して、中長期計画Ⅱ期(2022年4月1日～2027年3月31日)を策定する。さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多面的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多面的な教育活動に寄与する計画とする。

[ビジョン・目標]

大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

兵庫県内の大学が連携して、地方自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発するとともに、人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する大学コンソーシアムひょうご神戸の取組を通じて、兵庫県と加盟校の魅力を県内外に発信する。兵庫県内の若者人口の増加、大学教育・地域創生への貢献が明確に可視化される活動を展開する。

大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる場をめざす。

大学コンソーシアムひょうご神戸が、大学間連携組織の特徴を生かして、産官学連携による人材育成・教育支援に取り組み、地域に貢献できるような大学プラットフォームを構築する。そのために以下の4つの柱での取組事業を実施する。

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携
2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援
3. 県内大学の教育・研究の質を高める多面的学びの提供
4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築

[体制] プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



加盟校数、賛助会員数は、2021年12月現在

[具体的な取り組み内容]

上記の課題を踏まえ、中長期的な目標を設定し、①情報の共有と発信②人的交流の促進③ステークホルダー（地方自治体・企業・地域・高等学校等）との有機的連携の3つを重点項目として取り組む。

## **1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携**

### **①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上**

（加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携）

【取組1】大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施

（目標）各年参加者数 500 名以上

（内容）兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業への就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。

（担当）キャリア部門

【取組2】県内企業・団体等の魅力を情報発信

（目標）情報公開企業・団体数 120 社以上

（内容）地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公表するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める。

（担当）キャリア部門

### **②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続**

【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施

（目標）各年参加校数 20 校以上

（内容）教育委員会等と連携して兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行い、兵庫県下の高大連携を深める。

（担当）高大連携部門

【取組2】加盟校の魅力を情報発信

（目標）各年情報提供先数 高等学校等 200 校以上

(内容) 加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。  
(担当) 高大連携部門

### **③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進**

#### **【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施**

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクトを実施する。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。

(担当) 学生交流部門

#### **【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施**

(目標) 情報公開数 200 取組以上

(内容) 加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開する。各年、継続的に事例紹介を重ねることにより、本計画期間内で 200 取組以上を紹介する。地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む。

(担当) 学生交流部門

## **2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援**

### **④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進**

#### **【取組1】留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施**

(目標) 各年参加者数 500 名以上

(内容) “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル人材育成を目指した事業を展開する。プラットフォームを活用した留学生就職促進事業として、大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することでの留学生の受入環境づくりを促進し、卒業後の県内企業への就職の動機付けを図る。

(担当) キャリア部門

### **⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進**

#### **【取組1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施**

(目標) 各年参加者数 500 名以上

(内容) 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（日本学生支援機構委託事業）にお

いて、大学間連携による国際交流の拠点を、兵庫国際交流会館を起点に大学キャンパス外の地域社会に形成することを推進する。留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。

(担当) 国際交流部門

【取組2】 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進

(目標) プログラム数 10 件以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを生かして、加盟校主催の国際交流イベントの情報を収集し、加盟校間の情報共有を行う。本計画期間内において、段階的に加盟校が主催する国際交流プログラムと連携することにより、大学の枠を超えた加盟校間の留学生・日本人学生等の交流を促進させる。

(担当) 国際交流部門

### **3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供**

#### **⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進**

【取組1】 加盟校間での FD・SD セミナーの公開

(目標) 各年セミナー数 5 件以上

(内容) 加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

【取組2】 FD・SD 情報交換会、セミナー等の開催

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。

(担当) FD・SD 部門

#### **⑦大学間連携による多様な教育ニーズへの対応**

【取組1】 単位互換事業の実施

(目標) 各年開放科目数 10 科目以上

(内容) 加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。

(担当) 教育連携・教務部門

【取組2】 多様な学修機会の提供

(目標) 各年プログラム数 5 件以上



(内容) 加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する(ICTを活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等)。

(担当) 教育連携・教務部門

#### **⑧県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進**

【取組1】リカレント教育の普及促進に向けた取組

(目標) 各年参加者数 50 名以上

(内容) 加盟校によるリカレント教育の推進・理解促進に向けたセミナー・情報交換会等を開催する。産官学で連携したリカレント教育推進に関するネットワークを構築する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

【取組2】加盟校のリカレント教育に関する情報発信

(目標) 各年 10 校以上

(内容) 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページで加盟校が開講するリカレント教育に関する取組情報を発信する。

(担当) リカレント教育部門・企画運営委員会

### **4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築**

#### **⑨大学資源を活用する地域プラットフォームの形成**

【取組1】大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築

(目標) 大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充

(内容) 兵庫県下で大学間連携のプラットフォームとして、加盟校の大学資源を生かす運営体制を本計画期間内において、段階的に構築する。また、加盟校がすでに有している大学間連携・地域・地方自治体との連携体制の理解促進も図る。

(担当) 企画運営委員会

【取組2】緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築

(目標) 緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築

(内容) 感染症(新型コロナウイルス感染症等)や災害対応等、災害・緊急事態対応等の不測の事態に備えて、定期的に加盟校が蓄積する経験や知見の情報収集を行い、共有する。本計画期間内において、段階的に情報共有を重ねることにより、有事の際に速やかに情報共有・情報提供ができる体制の構築を目指す。

(担当) 企画運営委員会

## ⑩県内大学が活性化する事業運営体制の整備

【取組1】加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進

（目標）加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築

（内容）加盟校教職員が大学間連携活動に積極的に参画できる事業運営体制を本計画期間内において、段階的に検討・構築する。同じ課題を有する加盟校による小グループで課題の共有、ICTの活用、プロジェクト型での事業推進等のニーズに合わせて、事業運営体制の整備に取り組む。

（担当）企画運営委員会

上記の中長期計画に基づき、各年度毎の事業計画を別途作成し、各プログラムの具体的な活動指標を個別に定めて事業を推進する。なお、中長期計画を実施する計画ならびに担当については、年度毎の見直しにより変更することがある。

以 上



一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
事業委員会運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸(以下「コンソ」という。)定款第38条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 事業委員会の組織

- ・事業委員会は、正会員の教職員からなる委員により、構成する。
- ・事業委員会の委員は、正会員あたり原則2名(教員1名、職員1名)とし、毎年度、第1回委員会開催までにコンソ事務局に登録する。

3. 委員長校、副委員長校

- ・事業委員会は、委員長校、副委員長校を置く。但し、副委員長校は複数校置くことができる。
- ・委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議など、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行し、事業委員会の円滑な運営に努める。
- ・委員長校、副委員長校の任期は、2年とし、再任は妨げない。
- ・任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取の上、企画運営委員会で協議し、理事会で決定する。
- ・委員長校は、原則として理事校が担当する。但し、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができる。

4. 事業委員会の任務

- ・事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業の具体的な計画・実施・報告(自己評価)を行う。
- ・事業委員会は、必要に応じ情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

- ・事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。
- ・事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則2名の委員」に拘らず、計3名以上の者もしくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件(定足数)

- ・事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。
- ・委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。
- ・「委任状」の制度は用いない。
- ・事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

## 7. 議決権及び議決数

- ・正会員あたり各1個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

## 8. プログラム担当校

- ・事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。
- ・プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告(自己評価)を行う。
- ・委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

## 9. 事業委員会事務局

- ・事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局(委員長校・副委員長校)が連携して行う。

## 10. 改廃

- ・この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

## 附記

- ・この申し合わせは、2019年4月1日から施行する。
- ・この申し合わせは、2022年4月1日から改正施行する。
- ・「3.委員長校、副委員長校」の任期について、2022年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め1年とする。

以上

## 2022年単位互換事業 履修申込状況（1次募集：4月）

科目数	分野	提供校 (校)	科目開放大学	開放科目名	開講形態	授業形態	単位数	送り出し校	履修可 (人)	履修申込	申込者数 (人)
1	商業	1	大手前大学	企業会計入門	通常（4～7月）	非対面授業・オンデマンド型	2	関西学院大学（1）、神戸学院大学（2）	3	関西学院大学（1）、神戸学院大学（3）	4
2	文化		大手前大学	サブカルチャー分析	通常（4～7月）	非対面授業・オンデマンド型	2	神戸学院大学（1）、兵庫県立大学（2）	3	神戸学院大学（3）、兵庫県立大学（3）	6
3	防災	2	関西国際大学	災害と安全（危機管理）	集中（2月）	対面授業	2	神戸学院大学（3）	3	神戸学院大学（3）	3
4	国際	3	甲南大学	国際関係論	通常（4～7月）	対面事業	2	関西国際大学（1）	1	関西国際大学（1）	1
5	国際		甲南大学	世界の中の日本Ⅰ	通常（4～7月）	対面事業	2	神戸松蔭女子学院大学（2）	2	神戸松蔭女子学院大学（2）	2
6	情報	4	神戸大学	データサイエンス基礎学	通常（12～2月）	非対面授業・オンデマンド型・オンライン型	1	神戸学院大学（1）	1	神戸学院大学（1）	1
7	農業		神戸大学	農場と食卓をつなぐフィールド演習	集中（8～9月）	対面授業	1	関西学院大学（1）、神戸学院大学（2）	3	関西学院大学（1）、神戸学院大学（2）	3
8	語学	5	神戸学院大学	上級中国語ⅠC（時事・総合）	通常（4～7月）	対面事業	1	履修不可（語学レベルによる）	0	神戸松蔭女子学院大学（1）	1
9	芸術	6	神戸芸術工科大学	アニメーション作品表現論	通常（4～8月）	対面事業	2	神戸学院大学（1）	1	神戸学院大学（1）	1
10	防災	7	兵庫県立大学	減災復興政策概論	通常（6～7月）	対面事業	2	神戸学院大学（1）	1	神戸学院大学（1）	1
11	防災		兵庫県立大学	防災の国際協力	通常（6～7月）	対面事業	2	神戸市外国語大学（1）	1	神戸市外国語大学（1）	1
11科目		7校							19		24

## 1 2022年度（4月）科目提供校と開放科目数について

- ・科目提供校：14校、開放科目数：76科目

## 2 2022年度（4月）履修者について

- ・科目提供校7校の11科目に、協定締結校6校・24名の履修申込があった。
- ・科目提供校7校の11科目に、協定締結校5校・19名の履修可となった。
- ・2科目において、定員を超える応募があった。

## 【2022年度 教育連携委員会 事業計画】

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 大手前大学

委員校: 大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学

計24校

## ＜目的＞

加盟校の教育・研究の質を高める「多元的学び」を提供する取り組みとして、加盟校の教育事業についての相互連携、教育資源及びテクノロジー活用に関する相乗効果を図る。

「大学間連携による多様な教育ニーズ」に対応する教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。

さらに、学生の所属校の垣根を越えた学びに対して単位認定の道を開くことで、学生が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性の涵養を図るとともに、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

## ＜内容＞

## 1. 単位互換事業の実施

加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。「多様なメディアを高度に利用した」科目等も取り入れる。

## 2. 多様な学修機会の提供

加盟校に通う学生等に多様な学修機会を提供するため、加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する。

## ＜期待される効果＞

## 1. 単位互換事業の実施

- (1) 「多様なメディアを高度に利用した」授業科目を本格的に取り入れることで、大学間の地理的・時間的課題を解消し、より多くの学生に大学の枠を超えた学びの場の提供をすることによる教育効果の向上。
- (2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進。

## 2. 多様な学修機会の提供

- (1) 加盟校の教育資源を活用する「多元的学びの機会」を継続的に提供することによる、加盟校の教育事業についての相互連携、教育・研究の質の向上。
- (2) 異なる分野の学生等の交流促進による広い視野を持った人材の育成。

課題⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		予算額
取組1	単位互換事業	590,000円
取組2	多様な学修機会の提供事業	10,000円

**【2022年度 教育連携委員会 事業計画(課題⑦取組1)】**

<b>【⑦取組1】達成目標</b>	各年開放科目数10科目以上
<b>【⑦取組1】活動指標</b>	送り出し校数・5校/年

<b>課題⑦</b>	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応			
<b>達成目標【⑦取組1】</b>	各年開放科目数10科目以上			
<b>課題を解決する取組概要【⑦取組1】</b>	単位互換事業の実施			
<b>活動指標【⑦取組1】</b>	送り出し校数・5校/年			
<b>内容 (計画)</b>	<p>加盟校学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。</p> <p>1. 2022年度単位互換事業 各大学の特色的な科目やフィールドワーク等の実践的な科目など76科目以上を開放科目として実施。</p> <p>2. 2023年度単位互換事業に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位互換包括協定書締結大学の拡大</li> <li>・開放科目の選定</li> <li>・広報ツールの制作</li> </ul>			
<b>新しい試み等 (事業計画に記載)</b>				
<b>事業収支</b>	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	590000円			

<b>自己評価</b>	<b>【対到達目標】</b>		<b>【対継続性】</b>	

■自己評価基準  
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準  
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

<b>理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)</b>	
------------------------------------	--

**【2022年度 教育連携委員会 事業計画(課題⑦取組2)】**

<b>【⑦取組2】達成目標</b>	各年プログラム数5件以上
<b>【⑦取組2】活動指標</b>	参加者数50人以上/年

<b>課題⑦</b>	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応			
<b>達成目標【⑦取組2】</b>	各年プログラム数5件以上			
<b>課題を解決する取組概要【⑦取組2】</b>	多様な学修機会の提供			
<b>活動指標【⑦取組2】</b>	参加者数50人以上/年			
<b>内容(計画)</b>	<p>加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する(ICTを活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等)。</p> <p>1 公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放 2022年度は、多様な学修機会を大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員ならびに学生へ広く開放することとする。</p> <p>2 ICTを活用したコンテンツの検討 2021年度「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」試行運用を教育連携委員会委員校7校を対象に実施した。試行期間は、2020、2021年度としていたが大学eラーニング協議会事務局より、継続をお認めいただいている。年会費(30,000円)が必要となることから、教育連携委員会での承認を得たのちに正式決定とする。</p>			
<b>新しい試み等(事業計画に記載)</b>	「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」試行を教育連携委員会委員校以外にも周知し、希望校は、試行できるようにする。			
<b>事業収支</b>	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	10000円			

<b>自己評価</b>	<b>【対到達目標】</b>		<b>【対継続性】</b>	

■自己評価基準  
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準  
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

<b>理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)</b>	
-------------------------------	--

2022年度 教育連携委員会 事業予算

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
		取組1		取組2			
		単位互換事業		多様な学修機会の提供事業		内訳	予算額
		内訳	予算額	内訳	予算額		
収入	会費収入	700,000		590,000		10,000	100,000
	助成事業収入	0					
	受託事業収入	0					
	プログラム収入	0					
	雑収入	0					
	戻入金	0					
	計	700,000		590,000		10,000	100,000
支出	会議費	10,000	検討委員会開催費	5,000	検討委員会開催費	5,000	
	旅費交通費	10,000	検討委員会調査費	5,000	検討委員会調査費	5,000	
	通信運搬費	0					
	消耗品費	0					
	新聞図書費	0					
	印刷製本費	160,000	ポスター・チラシ制作費	160,000			
	光熱水料費	0					
	賃借料	0					
	保険料	0					
	謝金	80,000	ポスター・チラシ謝金	80,000			
	租税公課	0					
	支払手数料	2,000	振込手数料	2,000			
	諸会費	0					
	委託費	428,000	単位互換HP更新費	338,000			各プログラムHPに係る予備費 90,000
	人件費	0					
	接待交際費	0					
	支払支援金	0					
雑費	10,000					委員長校・副委員長校連絡調整等 10,000	
計	700,000		590,000		10,000	100,000	

収入－支出	0
-------	---



## 2022 年度教育連携委員会の運営について

### 1 単位互換事業

委員長校を中心に、今年度事業の着実な実施と来年度に向けた取り組みを実施する。  
2022 年度後期、2023 年度の円滑な事業運営に向けて、必要に応じて運営方法やマニュアル等の見直しを行う。

### 2 多様な学修機会の提供事業

加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、学びの機会を継続的に提供する（ICT を活用したコンテンツ、専門領域や分野横断型のプログラム等）。

#### (1) 公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放

各加盟校の公開講座等を募集し、加盟校教職員ならびに学生に開放する。

#### (2) ICT を活用したコンテンツの検討

2022 年度からの本格運用に向け、2019 年度から 2021 年度にかけて教育連携委員会委員校を対象に試行運用していた「大学 e ラーニング協議会共通基盤教育システム」を、大学 e ラーニング協議会の協力により、2022 年度も引き続き、試行運用できることとなったため、広く加盟校に試行運用の機会を提供する。

### 3 今後の予定

第 1 回教育連携委員会 5 月 11 日(水)10:00～11:30 オンライン開催

- ・単位互換事業 担当者意見交換会（6 月～8 月で調整予定）
- ・多様な学修機会の提供事業（公開講座等）の募集・周知（通年）
- ・「大学 e ラーニング協議会共通基盤教育システム」試行運用の周知（通年）

第 2 回教育連携委員会（11 月～12 月上旬予定）

- ・2022 年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成
- ・2023 年度「単位互換事業」実施方針などについて

第 3 回教育連携委員会（1 月予定）

- ・2023 年度「単位互換事業」開放科目などについて

第 4 回教育連携委員会（2～3 月予定）

- ・2022 年度事業報告・決算などについて
- ・2023 年度事業計画・予算などについて

※開催時期は変更の可能性あり。

上記のほか、必要に応じてメール審議及び委員会・意見交換等を開催する。

## 単位互換事業について

## 1 開放科目と履修登録の現状について

2022年度募集では、2021年度に引き続き、集中科目（国内合宿型、集中型実技、実習等特別プログラムなど）に加え、地域性や特色ある科目で実施。

《開放科目数と履修者数の推移》

年度	開放科目数		履修者数		備考
2010	5校	19科目	2校	2名	試行
2011	12校	85科目	5校	17名	本格実施
2012	19校	96科目	4校	22名	夏期集中講義プログラムの提供開始
2013	19校	115科目	8校	23名	単位互換協定の締結大学と開放科目の拡大
2014	19校	118科目	8校	31名	加盟校の約2/3が単位互換「科目開放覚書」締結 加盟校からの特徴ある科目（集中講座等）提供開始
2015	6校	14科目	6校	18名	通期科目の単位互換を取り止め、集中講義に特化
2016	5校	13科目	7校	14名	学生への周知拡大のため、学生が広報ポスターをデザイン（神戸芸術工科大学に依頼）
2017	13校	32科目	4校	11名	集中講義に限定せず、特色のある科目に広げて科目開放
2018	11校	31科目	4校	13名	*e-learning活用検討部会を設けて勉強会
2019	14校	45科目	6校	16名	*大学eラーニング協議会（UeLa）との連携（共通基盤教育の案内）
2020	15校	41科目	3校	8名	新型コロナウイルス拡大防止のため、前期科目開放は中止。後期1科目実施。協定書の見直し
2021	11校	43科目	8校	29名	コロナ禍での単位互換、29人中20人が非対面。 （オンライン17人、オンデマンド3人）
2022	14校	76科目	8校	19名	1次募集（5月現在）の状況

\*=多様な学修機会の提供についての委員会活動（参考）

※履修申込スケジュールは事務手続きマニュアル参照

## 2 開放科目の追加と履修者の募集について

- ①追加募集可能な科目を各大学に照会し、2次募集を5月、3次募集を8月に行う。
- ②上記に合わせて、特に後期の集中講義で特色的な科目について、開放できる科目があるかを照会し、新規科目の募集も行う。

## 3 2023年度の履修に向けて

## ①単位互換包括協定締結大学、科目開放の覚書締結大学の拡大

未締結大学等へ依頼文書を送付する

2022年度は昨年度より1校増加（芸術文化専門職大学）し、34校が協定締結。

科目開放は14校76科目に増加した。

※コンソ加盟校は39校（29大学、8短期大学・部、1高等専門学校）

## ②広報ツールの制作

広報用ポスターの作成及び単位互換HPの更新（2月頃～）を行う。

※2022年度ポスターは、神戸芸術工科大学に制作していただきました。

（2022年3月中旬に各大学に納品）

## ③アンケートの実施

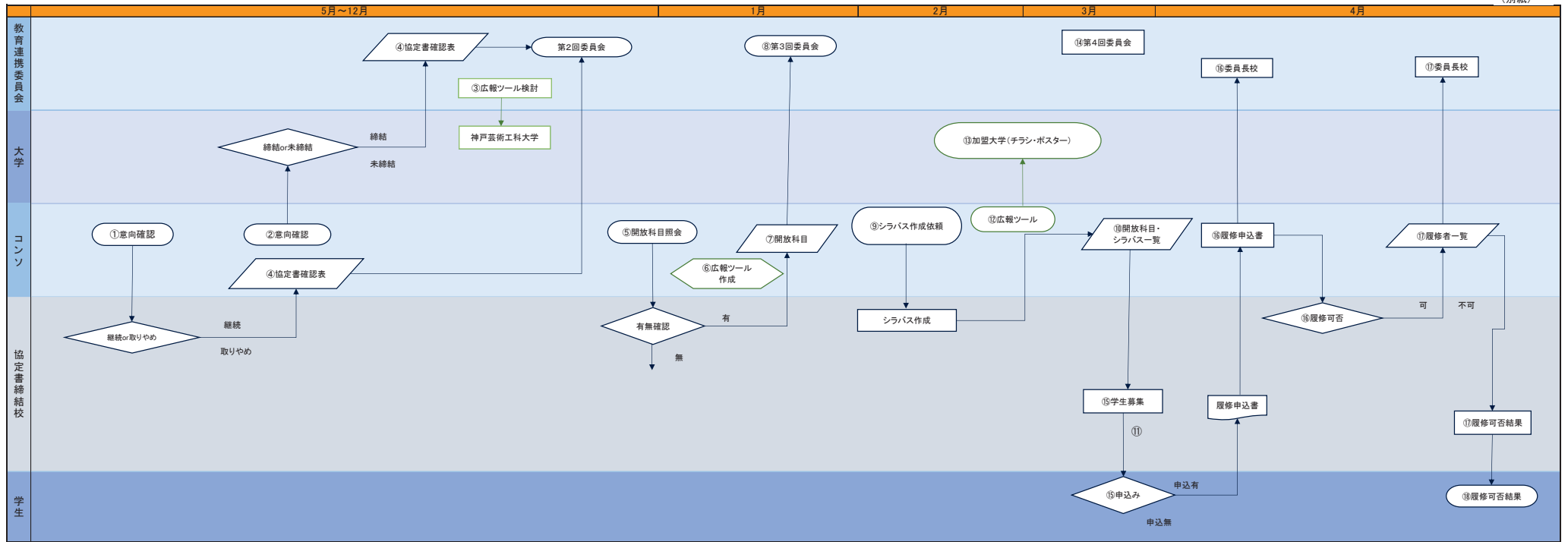
履修者へのアンケートを実施する

## 4 単位互換手続きマニュアルについて

2022年度後期、2023年度の実施に向けて、効率的な運用ができるよう、必要な見直しを行う。

単位互換フローチャート

(別紙)



番号	内容	時期	対応者	番号	内容	時期	対応者
①	包括協定書第9条に基づく取りやめ申し入れに係る意向確認	6月～11月末	コンソ事務局	⑩	開放科目シラバス取りまとめ	2月中旬締切	コンソ事務局
②	包括協定書未締結校へ締結依頼文書を送付し、意向確認	6月～11月末	コンソ事務局	⑪	包括協定書締結校へ開放科目を周知	2月末頃	コンソ事務局
③	広報ツール(ポスター・チラシ)の検討 ※神戸芸術工科大学と相談	8月～11月	委員長校	⑫	webシステム更新(広報ツールデータのwebアップ含む)	2月中旬～3月中	コンソ事務局
④	上記1・2の結果を踏まえた次年度包括協定書締結校をとりまとめ、次年度の実施方針を協議	12月上旬	第2回委員会	⑬	広報ツールを加盟大学へ納品	3月中旬	コンソ事務局
⑤	上記4の結果を踏まえ、科目提供大学へ開放科目(概要込)を照会 ※シラバス提出期限が2月中旬であることを併せて連絡	12月上旬～1月下旬	コンソ事務局	⑭	次年度事業概要報告	3月中旬～3月下旬	第4回委員会
⑥	広報ツール(ポスター・チラシ)の制作	12月上旬～3月上旬	コンソ事務局	⑮	協定書締結校にて学生募集、申込受付	履修登録期間	包括協定書校
⑦	上記5の結果を踏まえた次年度開放科目をとりまとめ、委員長校へ報告	1月下旬	コンソ事務局	⑯	協定書締結校(履修希望学生がいる場合のみ)から履修申込書を受け取り、科目開放校へ送付(合わせて委員長校へ状況報告)	4月中旬～末頃(履修登録期間後)	コンソ事務局
⑧	次年度開放科目決定(メール審議)	1月下旬	第3回委員会	⑰	履修可否結果を科目開放校から受け取り、協定書締結校へ連絡(合わせて委員長校へ結果報告)	4月末頃	コンソ事務局
⑨	上記8に基づき、シラバス作成正式依頼(2月中旬締切) ※シラバス様式はコンソ統一様式を使用	1月下旬	コンソ事務局	⑱	協定書締結校から履修学生へ履修可否の連絡	4月末頃	包括協定書校

2022 年度  
大学コンソーシアムひょうご神戸 単位互換事業マニュアル

I. 単位互換事業とは

単位互換事業とは、加盟大学に所属する学生が、他の加盟大学で開講する科目を履修でき、修得した単位が所属大学の単位として認定されるものであり、概要は以下のとおりである。

事業所管委員会	教育連携委員会
事業参画要件	大学コンソーシアムひょうご神戸「単位互換事業における包括協定書」を締結していること
対象学生	1年生(留年生も含む)の夏季休業からの在学期間中。ただし、短期大学は1年生前期から対象とする。
開放科目の選定要件	集中開講科目(国内合宿型、集中型実技・実習等特別プログラム)及び兵庫県地域特性や各校の特徴的な通常開講科目等

II. 単位互換事業フロー

No.	内容	時期	対応者	番号
	当該年度学生送り出し校へ受講者アンケート実施依頼	7月	コンソ事務局	
1	包括協定書第9条に基づく取りやめ申し入れに係る意向確認	7月～11月末	コンソ事務局	①
2	包括協定書未締結校へ締結依頼文書を送付し、意向確認(依頼文書は委員長校に確認のうえコンソ事務局が送付)	8月～11月末	コンソ事務局	②
	当該年度の前期受講者アンケート提出期限(学生送出校→コンソ事務局→委員長校)	10月末	学生送出校	
3	広報ツール(ポスター・チラシ)の検討	10月～11月	委員長校	③
4	上記1・2の結果を踏まえた次年度包括協定書を取りまとめ、次年度の実施方針を協議	12月上旬	第2回委員会	④
5	上記4の結果を踏まえ、包括協定書締結校へ開放科目(概要込)を照会(シラバス提出期限の事前連絡を兼ねる)	12月上旬～1月下旬	コンソ事務局	⑤
6	広報ツール(ポスター・チラシ)の制作	12月上旬～3月上旬	コンソ事務局	⑥
7	上記5の結果を踏まえた次年度開放科目を取りまとめ、委員長校へ報告	1月下旬	コンソ事務局	⑦
8	次年度開放科目決定(メール審議)※1	1月下旬	第3回委員会	⑧
9	上記8に基づき、科目開放校へシラバス(コンソ統一様式)提出依頼(2月中旬締切)	1月下旬	コンソ事務局	⑨
	当該年度の後期受講者アンケート提出期限(学生送出校→コンソ事務局→委員長校)	2月中旬	学生送出校	

10	開放科目シラバス取りまとめ	2月中旬締切	コンソ事務局	⑩
11	包括協定書締結校へ開放科目を周知	2月末頃	コンソ事務局	⑪
12	web システム更新（広報ツールデータの web アップ含む）	2月中旬～3月中	コンソ事務局	⑫
13	広報ツールを包括協定書締結校へ納品・学生募集（提出書類等）についての案内	3月中旬	コンソ事務局	⑬
14	次年度事業概要報告	3月中旬～3月下旬	第4回委員会	⑭
15	包括協定書締結校において学生募集実施※2	履修登録期間	協定書締結校	⑮
16	包括協定書締結校（履修希望学生がいる場合のみ）は履修申込書類をコンソ事務局へ提出 （コンソ事務局は、必要に応じて委員長校へ状況報告）	3月末～4月上旬頃 （履修登録期間）	コンソ事務局	⑯
17	履修申込書・履修学生一覧表を科目開放校へ送付 （コンソ事務局は、必要に応じて委員長校へ状況報告）	4月上旬～4月中旬 （履修登録期間後）	コンソ事務局	
18	履修可否結果を科目開放校から受け取り、包括協定書締結校へ連絡（併せて委員長校へ結果報告）	4月中旬	コンソ事務局	⑰
19	包括協定書締結校から履修学生へ履修可否の連絡	4月中旬	協定書締結校	⑱

#### ※1 開放科目の追加について

基本的には No8 の時点で当該年度の開放科目を確定するが、包括協定書締結校より開放科目追加の申し出があった場合は、随時、メール審議等において開放科目追加を審議・決定する。

#### ※2 学生募集について

No15 の時点（一次募集）で前期分・後期分をまとめて行う。二次・三次募集（詳細はIV参照）は、集中講義科目と後期科目について、科目開放校の意向を確認のうえ、希望校があった場合のみ行う。

#### No.1 包括協定書第9条に基づく取りやめ申し入れに関わる意向確認

包括協定書の有効期限は、原則締結日から1年度であり、その後は締結校から取り止めの意思がなければ自動継続となっていることから、継続意思の確認を行う。

#### No.2 包括協定書未締結校へ締結依頼文書を送付し、意向確認

包括協定書未締結校に対し、包括協定書締結に係る依頼文書を発送する。

#### No.3 広報ツールの検討

ポスター及びチラシなどの広報ツールの制作について検討する。

（これまでは神戸芸術工科大学の学生に制作を依頼）

#### No.4 次年度包括協定書締結校をとりまとめ、次年度の実施方針を協議

- ・ No.1 及び No.2 の結果をふまえ、次年度包括協定書をとりまとめ、第2回委員会にて次年度の実施方針を協議する。なお、本マニュアルを改訂する必要がある場合は、第2回委員会開催案内時に改訂案を送付するなど、事前の情報共有に努める。
- ・ 第2回委員会で新規承認された大学に対し、次年度に向けた包括協定書調印手続きを行う。

#### No.5 包括協定書締結校へ開放科目（概要込）を照会

包括協定書締結校に対して開放科目を照会し、シラバス提出期限が2月中旬頃であることも併せて連絡する。

#### No.6 広報ツールの制作

3月上旬完成を目途に、広報ツール（ポスター、チラシ）を作成する。

#### No.7 次年度開放科目をとりまとめ、委員長校へ報告

科目開放校はコンソへ開放科目一覧表（資料3）を提出する。

提出された開放科目一覧表はコンソにてとりまとめ、委員長校へ報告する。

#### No.8 次年度開放科目決定

No.7で報告された結果をもとに、第3回委員会にて開放科目を決定する。（メール審議）

#### No.9 シラバス提出依頼

コンソより科目開放校へシラバス提出を依頼する。シラバス様式は、コンソ統一様式（資料4）とし、科目開放校のシラバス様式での提出は認めない。なお、開講期間や時間、補講、試験等は科目開放校の規定を適用する。

#### No.10 開放科目シラバスとりまとめ

科目開放校はシラバスを作成の上、2月中旬までにコンソへ提出する。なお、科目開放校は、開放科目の詳細など学生に配布できる資料がある場合は、併せて提出する。

#### No.11 包括協定書締結校へ開放科目を周知

コンソにて開放科目をとりまとめ、包括協定書締結校へ開放科目の周知を行う。

#### No.12 Web システム更新

コンソホームページに設置されている単位互換事業ページで開放科目についての情報を公開する。

#### No.13 広報ツールを包括協定書締結校へ、納品・学生募集（提出書類等）についての案内

広報ツール（ポスター、チラシ）を包括協定書締結校へ納品する。

コンソより協定書締結校へ学生募集（提出書類等）についての案内を行う。

#### No.14 次年度事業概要報告

委員会を開催、もしくは書面審議にて（3月中旬～下旬頃）、次年度の事業概要の報告を行う。

#### No.15 包括協定書締結校において学生募集

##### (1) 包括協定書締結校における学内申込期間の設定

- ・留学生は、他大学での授業を支障なく受講できると所属大学で判断された場合のみ申込を受け付ける。
- ・卒業年次生は、卒業要件ギリギリの状態での履修は避けるよう、履修指導を行うこと。

##### (2) 申込者が募集人数を超えた場合

各協定書締結校内で募集人数枠以内になるように調整する。

#### No.16 包括協定書締結校は履修申込書類をコンソ事務局へ提出

学生から履修申込があった包括協定書締結校は、各期日までにコンソに、履修申込書・学生証の写し及び履修学生一覧表をメールと郵送にて提出する。

履修申込書及び学生証写し（PDF データ）・履修学生一覧表（Excel データ） → メール提出 履修申込書原本 → 郵送提出
--

※履修申込書については、顔写真が明瞭に映った学生証のコピーを添付することとする。

但し、科目開放校が写真の添付を必要とする場合は、履修申込書に写真を添付する。

（神戸松蔭女子学院大学）



### No.17 履修申込書・履修学生一覧表を科目開放校へ送付

コンソにて、履修申込書及び履修学生一覧表をとりまとめ、各科目開放校へ送付のうえ、必要に応じて委員長校へ状況報告する。

- ① 履修申込書及び学生証写し（PDF データ）・履修学生一覧表（Excel データ）→ メールにて送付
- ② 履修申込書原本 → 追って郵送

### No.18 履修可否結果を科目開放校から受け取り、包括協定書締結校へ連絡

科目開放校は出願のあった申込学生についての履修可否の連絡をコンソにメールにて行う。

（履修可否記入済の履修申込書及び履修学生一覧表をデータ送付）

コンソは履修可否結果を取りまとめた上で包括協定書締結校へ連絡し、併せて委員長校へ報告する。  
なお、履修申込書原本については、受入可否を記載の上、科目開放校が保管する。

### No.19 包括協定書締結校から履修学生へ履修可否の連絡

包括協定書締結校は速やかに学生へ履修可否の連絡を行う。

履修許可書についてはコンソ統一様式のものを作成せず、必要であれば各大学で発行する。

※履修の可否が確定していない期間の授業については、可能な限り出席するよう申込学生に指導を行うので、科目開放校は出席を拒まないこと。

## Ⅲ. 履修に関して

### 1. 連絡について

(1) 履修・授業・試験・成績等に関する学生からの問い合わせは、所属大学を通じて行う。

所属大学を通じて連絡・案内する場合は、各々の定める方法で行う。

授業開始までの、科目開放校での講義を受講する際の注意や試験の実施方法等の案内、学生からの問い合わせは所属大学を通じて行う。基本的に学生から科目開放校へ問い合わせないように指導すること。

(2) 緊急時の場合は、科目開放校から学生へ直接連絡することがある。また、学生からも科目開放校へ直接連絡することを容認する。

(3) 履修を許可された後については、科目開放校の担当窓口の指示に従うこととする。

### 2. 学生対応について

(1) 履修生専用の身分証はコンソ共通のものは作成せず、必要に応じて科目開放校にて準備する。

(2) また、科目開放校は、履修生が図書館、食堂等の厚生施設を、科目開放校発行の身分証もしくは所属大学の身分証の提示により使用できるように取り計らう。

(3) 各大学に単位互換に関する規定や内規等がある場合は、その範囲内で運用することとする。

(4) 学生の所属大学は、履修を途中で辞めないように指導する。ただし、特別な事情がある場合は、大学間で履修取り消しを決定の上、コンソへ報告する。

### 3. 休校・補講について

(1) 休講要件等、履修のうえで必要な情報について、所属大学は科目開放校から情報を入手し、学生へ説明しておくこと。

(2) 休校・補講やその他授業に関する伝達事項が発生した場合は、科目開放校から所属大学へ発信する。また、学生への連絡は所属大学の定める方法で行う。

事前に決定されている休校・補講である場合は授業時に科目開放校担当者から学生へ案内する。ただし、学生には日頃から科目開放校の掲示板などで情報を確認する習慣を身に着けるように指導すること。

(3) 災害などの場合

災害など、予測ができない状況における休校については、基本的に科目開放校のホームページに情報を掲載する。

なお、急を要する場合の連絡については、学生と科目開放校との間で直接対応を可とする。

4. 公欠（公休）について

公欠（公休）等の出欠の取り扱いは、科目開放校の規定を適用する。

5. 試験について

(1) 定期試験の時間割は、科目開放校から所属大学へ定期試験通知書を送付する。

(2) また、学生への連絡は所属大学の定める方法で行う。但し、所属大学との試験と重複した場合は、所属大学の試験を優先させ、科目開放校と協議する。

(3) 追試験及び再試験については、科目開放校の実施基準を適用する。なお、実施の有無は科目開放校の責任において学生全員に周知することとする。

(4) 授業期間外に、独自の時間割を設定して定期試験を実施する場合は、原則科目開設曜日・時限での実施とする。

6. 成績通知について

(1) 科目開放校は、定められた期日までに学生所属大学へ送付し、評価の確認は関係する大学担当間で行う。その際の成績通知は自由形式とするが、必ず 100 点満点に換算した「素点」を加える。

(2) 定められた期日より早い送付を希望する大学は、個別に各大学へ依頼する。

(3) 学生への通知は、所属大学よりそれぞれの大学の定める方法で行う。

(学生から直接科目開放校へは問い合わせないこと)

#### IV. 履修登録スケジュール

	事項	日程案
一次募集	包括協定書締結校へ開放科目（概要込）照会	12月上旬～1月下旬
	開放科目決定	1月下旬
	コンソより、包括協定書締結校へ一次募集開放科目周知	2月末頃
	包括協定書締結校にて学生募集、受付	履修登録期間
	履修申込書類をコンソ事務局へ提出	履修登録期間（3月末～4月上旬）
	コンソより、科目開放校ごとに履修申込書類を送付	4月中旬～中旬頃（履修登録期間後）
	履修の可否のコンソへの通知期限	4月中旬
	コンソより包括協定書締結校へ履修可否結果の連絡	4月中旬
	申込学生への通知	通知受領後、速やかに伝える
二次募集	包括協定書締結校へ二次募集科目照会	4月中旬～5月上旬
	コンソより、包括協定書締結校へ二次募集開放科目周知	5月上旬～中旬
	包括協定書締結校にて学生募集、受付	履修登録期間
	履修申込書類をコンソ事務局へ提出	履修登録期間（5月上旬～7月上旬）
	コンソより、科目開放校ごとに履修申込書類を送付	7月中旬
	履修の可否のコンソへの通知期限	7月下旬
	コンソより包括協定書締結校へ履修可否結果の連絡	7月下旬
	申込学生への通知	通知受領後、速やかに伝える

	事項	日程案
三次募集	包括協定書締結校へ三次募集科目照会	7月中旬～8月上旬
	コンソより、包括協定書締結校へ三次募集開放科目周知	8月上旬～中旬
	包括協定書締結校にて学生募集、受付	履修登録期間
	履修申込書類をコンソ事務局へ提出	履修登録期間（8月下旬～9月中旬）
	コンソより、科目開放校ごとに履修申込書類を送付	9月中旬（履修登録期間後）
	履修の可否のコンソへの通知期限	9月下旬
	コンソより包括協定書締結校へ履修可否結果の連絡	9月中旬
	申込学生への通知	通知受領後、速やかに伝える

#### V. 単位互換事業協定書締結校（2022.3月現在）

No	学校名	協定書	No	学校名	協定書
1	芦屋大学	○	20	神戸親和女子大学	○
2	大手前大学	○	21	神戸常盤大学	○
3	大手前短期大学	○	22	神戸常盤大学短期大学部	○
4	関西国際大学	○	23	神戸薬科大学	○
5	関西福祉大学	○	24	園田学園女子大学	○
6	関西学院大学	○	25	園田学園女子大学短期大学部	○
7	甲南大学	○	26	宝塚医療大学	○
8	甲南女子大学	○	27	姫路大学	○
9	神戸大学	○	28	姫路獨協大学	○
10	神戸医療福祉大学	○	29	兵庫大学	○
11	神戸海星女子学院大学	○	30	兵庫大学短期大学部	○
12	神戸学院大学	○	31	兵庫医療大学	○
13	神戸芸術工科大学	○	32	兵庫県立大学	○
14	神戸国際大学	○	33	流通科学大学	○
15	神戸市外国語大学	○	34	芸術文化観光専門職大学	○
16	神戸市看護大学	○			
17	神戸松蔭女子学院大学	○			
18	神戸女子大学	○			
19	神戸女子短期大学	○	合計		34校

以上

## 2022 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸 単位互換制度マニュアル(学生用)

### I. 単位互換制度とは

単位互換制度とは、単位互換協定に加盟している大学・短期大学(以下、大学)に所属する学生が、他の加盟大学が開放する科目を履修でき、取得した単位が所属大学の単位として認定される制度です。この制度は、原則、大学に在学する1年生の夏季休業以降を対象としますが、短期大学は1年生前期から対象としています。年間で履修できる科目数や取得できる単位数は、各自の所属する大学によって取り扱いが異なりますので、事前に所属大学で確認してください。

なお、受講料は無料ですが、受講科目によっては、所定の実習費や材料費等が必要になる場合があります。

#### 【非対面形態の開放科目を履修するうえでの留意点】

2022 年度は、オンライン型やオンデマンド型など、非対面形態での開放科目を提供しますが、履修に必要な ICT 環境(受信端末や Wi-Fi 等)は履修者自身で整えることを前提としています。

履修にあたっては、履修前に必ず以下の点を確認するようにしてください。

- ・自身の ICT 環境に不安がある場合は、所属大学を通じて科目開放校に履修に必要な ICT 環境を確認する。
- ・自身で ICT 環境を整えられない場合は、所属大学が有する通信設備(コンピューター室等)を利用できるか確認する。

### II. 履修手続について

#### (1) 申込期間

単位互換科目は、履修登録期間(3月下旬から4月上旬ごろ)に、前期分後期分取りまとめて履修申込期間を設けています。なお、科目開講大学の都合により、夏期・後期科目の募集を追加で行う場合もあります。

#### (2) 申込手続き

所属大学で出願受付を行います。なお、所属大学ごとに申込期間が異なりますので、詳細については必ず所属大学にご確認ください。また、卒業年次生の履修について、卒業要件単位を満たすための履修は認めません。

- ・1次募集(前期申込):3月28日～4月4日(全科目対象)
- ・2次募集:5月頃(夏季集中講義・後期・秋学期開講科目対象)
- ・3次募集:8月頃(後期・秋学期開講科目対象)

※1次募集を原則としておりますので、できるだけ1次募集(前期申込)期間に手続きを行ってください。

- ①申込期間内に、履修申込書に必要事項を記入し、所属大学担当窓口へ提出してください。履修申込書は1科目につき1枚提出とします。提出の際は顔写真が明瞭に映った学生証のコピーを添付してください。なお、申込書は大学コンソーシアムひょうご神戸 HP よりダウンロードできます。<http://www.consortium-hyogo.jp/tanigokan/gansho.html>

※履修許可後の受講辞退は原則認めません。履修計画をしっかり立てて申し込みを行ってください。

- ②履修の可否について、申し込みから約2～3週間後に所属大学を通じて通知します。科目開講大学に直接問い合わせをしないようにしてください。通年科目または前期科目の場合、申し込みして履修許可通知があるまでに多くの科目で授業が開始されます。これらの科目に申し込みした場合は、履修可否通知があるまでその申込科目を仮受講してください。

なお、履修が許可されるまでの期間は、科目開講大学での講義を受講する際の注意や試験の実施方法等の案内などの問い合わせは所属大学を通じて行います。問い合わせがある場合は、まず所属大学の担当窓口ご連絡してください。

ただし、科目開講大学の施設などの諸条件から、申込者が授業定員を超えた場合、履修不可となる場合もあります。

### Ⅲ.履修について

#### (1) 連絡について

履修・授業・試験・成績等に関する連絡は所属大学を通じて行いますが、履修を許可された後については、科目開講大学の担当窓口の指示に従ってください。

また、緊急時の場合は科目開講大学から直接連絡することがあります。

#### (2) 施設利用について

履修生の身分は、所属大学の学生証で証明するものとします。

履修期間中、科目開講大学での図書館や食堂等の厚生施設を所属大学の学生証の提示により利用することができます。ただし、使用できる施設は科目開講大学の定めるところとします。

#### (3) 休講・補講について

休講や補講、その他授業に関する伝達事項が発生した場合は科目開講大学から所属大学へ連絡をしますので所属大学からの連絡に従ってください。また、災害など急を要する場合の連絡については、科目開講大学のホームページを確認の上、直接連絡をしても構いません。

#### (4) 公欠(公休)について

公欠(公休)等の出欠の取り扱いは、科目開講大学の規定を適用します。

#### (5) 試験について

定期試験は原則、授業と同一曜日・時限で実施されます。

なお、定期試験時間割は科目開講大学から所属大学へ通知されますので、所属大学へ確認するようにしてください。

定期試験は所属大学の試験を優先させ、開放科目と重複が生じた場合は所属大学窓口にご相談ください。追試験・再試験については、科目開講大学の実施基準を適用します。

#### (6) 成績通知について

成績通知は所属大学より行われます。単位の認定については、科目開講大学から通知された成績を所属大学の規定に基づき、認定を行います。

成績評価に関する問い合わせについては、科目開講大学に直接問い合わせはせず、所属大学の担当窓口へ行ってください。

以上

## 2021年度大学コンソーシアムひょうご神戸 単位互換事業 受講者事後アンケート

アンケート回答日 年 月 日

## ■あなたの所属について

大学・学部・学科等: 大学 学部 学科 年生

氏名:

## ■受講した授業について

大学名:

授業名:

期間: 2021年 月 日～ 2021年 月 日まで

## Q1. 受講のきっかけとなった媒体等は何でしょうか。(複数回答可)

- 大学のガイダンス 単位互換事業のポスター 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページ  
その他(具体的に )

## Q2. 受講した理由は何でしょうか。(複数回答可)

- 所属大学にない内容の授業 所属大学で受けた学びを深めるため  
所属大学にはあるが受講できない

(理由: )

- その他(具体的 )

## Q3. 単位互換事業について、利用してよかったですか。また、その理由もご記入ください。

- とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった よくなかった  
理由:

## Q4. 履修した科目が対面授業ではなかった場合のみ回答してください。

## ① どういう授業形態でしたか

- オンライン(ライブ配信) オンデマンド ハイブリッド その他

ハイブリッド、その他を選択した場合は具体的な授業方法を記載してください。

② 授業は理解できましたか

十分理解できた 理解できた どちらともいえない あまり理解できなかった 理解できなかった

理由：

③ 今後、対面以外の方法で履修できる単位互換科目が増えることを期待しますか

大いに期待する 期待する どちらともいえない あまり期待しない 期待しない

理由：

Q4.その他、ご意見、感想等がありましたらご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。



コンソ加盟校 公開講座等 情報提供フォーム（教育連携委員会：多様な学修機会の提供事業）

※セミナーの案内・実施要項・申込用紙等を作成されている場合は、併せて添付ください。  
 ※周知、周知期間を必要としますので、セミナー実施日の1ヶ月前を目安に情報提供ください。

大学名 必須	<input type="text"/>
セミナー名 必須	<input type="text"/>
セミナー概要・テーマ (50～150文字程度) 必須	<input type="text"/>
開催日（西暦：年月日） 必須	<input type="text"/>
開催時間（24時間表記／ 例：14：30～17：00） 必須	<input type="text"/>
種別（教職員/学生） 必須	<input type="text" value="▼"/>
セミナーの形式 必須	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> パネルディスカッション形式 <input type="checkbox"/> 参加者体験型 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> その他
オンラインの場合（使用ツール）、その他について 補足事項あれば	<input type="text"/>
公開について（公開区分） 必須	<input type="checkbox"/> 全て公開可 <input type="checkbox"/> 一部公開可 ※備考欄に詳細を記入ください
（当日配布資料の公開） 必須	<input type="checkbox"/> 全て公開可 <input type="checkbox"/> 一部公開可 <input type="checkbox"/> 資料なし
（実施後の事業報告書・アンケート結果） 必須	<input type="checkbox"/> 全て公開可 <input type="checkbox"/> 一部公開可 <input type="checkbox"/> 公開せず

セミナー受講対象者 <b>必須</b>	<input type="text"/>
募集人数（全体） <b>必須</b>	<input type="text"/> 人
コンソ加盟校参加可能枠 （人数制限がある場合） *ない場合は「制限なし」と記載ください <b>必須</b>	<input type="text"/> 人
申込期限（年月日） *先着順の場合は（先着○人） <b>必須</b>	<input type="text"/>
参加費 <b>必須</b>	<input type="checkbox"/> 有料 <input type="checkbox"/> 無料
参加費（有料の場合）	<input type="text"/> 円
申込・問い合わせ先 （担当部署名） <b>必須</b>	<input type="text"/>
（ご担当者名）	<input type="text"/>
メールアドレス	<input type="text"/> <input type="text"/> 確認用
電話番号	<input type="text"/> - <input type="text"/> - <input type="text"/>
申込サイト等（URL）	<input type="text"/>
本件ご記入者（コンソ・教育連携委員会からのご確認用）	<input type="text"/>
備考・連絡事項（加盟校学生または教職員に対する受講支援などあれば、こちらにお書きください。例えば、受講無料、割引等）	<input type="text"/>
添付ファイルがある場合	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません 4Mバイトまで <a href="#">複数ファイルを送るには</a>

**<ワークショップ>**

**大学eラーニング協議会**

**教材共有と共通基盤教育システム**

**運用方法を中心に, Ver. 20190314**

# 共有教材の整備

入学前後や初年次の基礎教育部分にむけて、  
各高等教育機関を中心に横断的に利用できるよう狙って整備

eラーニング先進校の  
ワーキンググループ  
による開発教材が  
ベースとなっている  
(文部科学省事業)

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

取組名称	学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進
取組大学	千歳科学技術大学（代表校）山梨大学、愛媛大学、佐賀大学、北星学園大学、創価大学、愛知大学、桜の聖母短期大学

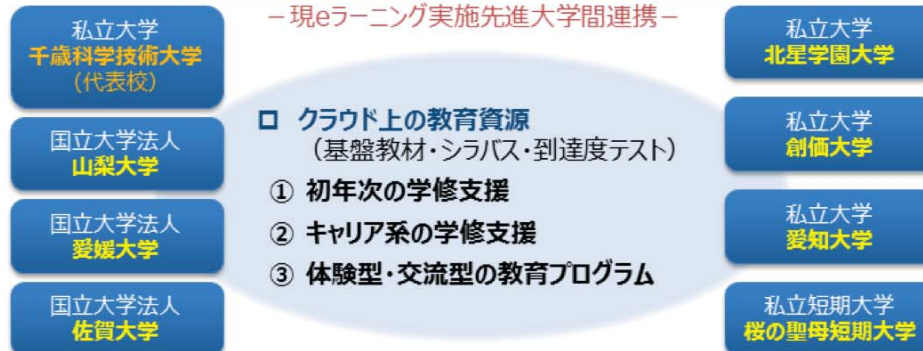
国立・私立・理系・文系・学部・短大が協力し、英語・数学・日本語・情報等の共通基盤的な教育内容をICT活用で共有し、かつFD・SDを通じて各大学の教育方法も共有しながら質の高い教育プログラムを展開し、知識を着実に展開して問題解決にあたる人材育成を目指す。さらに、ステークホルダの要請に基づき、他大学や地域社会で活用できる汎用性の高い学習内容（教材）や方法を構築し、ユニバーサル時代の日本の教育の質向上への寄与を目指す。

## 課題・背景

- ◇中央教育審議会大学分科会2012：予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ
- ◇「大学改革実行プラン」に基づく教育改革の推進

## 大学間連携共同教育推進委員会（FD/SD）

－現eラーニング実施先進大学間連携－



## ステークホルダ

- 大学eラーニング協議会
- 日本リメディアル教育学会
- 日本情報科教育学会

## 《協働》

- 共通基盤教材の整備
- 学修観の整備
- 情報の能力定義等

## 《要請》

- 実証と水平展開

期待される効果 「質の高い学士力の確保」と「主体的な学びの促進」

社会への波及 他大学や地域社会で活用できる汎用性の高い学習内容（教材）や方法を構築

# 教材の種類

分野	単元や内容	種別	数
高校情報	情報活用の実践力	演習	約200問
	情報の科学的な理解		
	情報社会に参画する態度		
中学数学	1～3年の基礎的内容	演習	約950問
		解説	約300ページ
高校数学	1～3年の基礎的内容	演習	約1850問
		解説	約650ページ
大学数学	微分積分（基礎および理系向け）	演習	約200問
		解説	約650ページ
	線形代数 統計学，数理統計，データ解析的解析	解説	約50ページ

※教材数は整備・再編等により変動するため、目安としてご覧ください

※一部の解説には Adobe Flash プラグインが必要です

⇒ 2018年度は、中学・高校数学の解説の脱Flash化（約800ページ）が進む

# 教材の種類

分野	単元や内容	種別	数
日本語	漢字（読み・書き），語義，四字熟語，ことわざなど	演習	約1200問
SPI対策	言語能力・非言語能力	演習	約250問
中学英語	英文法の基礎	演習	約1200問
大学英語	リメディアル英語	演習	約250問

※教材数は整備・再編等により変動するため、目安としてご覧ください

※一部の解説には Adobe Flash プラグインが必要です

# 教材の種類

- 入学時・2年次の学生の实力を測るためのテスト  
(マークシート用・Moodleテスト用)

分野	単元や内容
情報	情報リテラシー (初年次・2年次共通)
数学	数的指向 (文系・短大等むけ) 理系1 (高校数学2Bレベル) の3種類 理系2 (高校数学3Cレベル)
日本語	初年次 1種類 2年次 2種類 (試験時間が異なる)
大学英語	初年次 1種類 2年次 2種類 (リスニングの有無が異なる)
学習観	学びの意欲を自己診断するアンケート (初年次・2年次共通)



# 教材利用の費用

教材を利用したい教育機関は、大学eラーニング協議会に加盟の上、**教材利用料（年額7万円）**の費用が必要

- ⇒ 教材の改修、教材配信用の共通基盤教育システム（後述）の費用として充てられる
- ⇒ 利用を検討したい大学には、**原則1年間の無償試用期間**を用意  
2018年度は、28機関が利用、10機関が試月中

---

出版社等の著作権物を用いた、拡張版の教材も用意  
(利用の場合は上記と別途に著作利用料が必要)

例：TOEIC対策 **演習・教科書**（要別途費用）

マクミランランゲージハウス社の教材

(TOEIC 200～500, Red～Indigo)

演習約2700問、教科書約200ページ

# 演習の例 (Moodle)

## 標準のMoodleテスト形式で利用

### 問題 1

未解答

最大評点 5.00

▼ 問題にフラグを付ける

✳ 問題を編集する

$0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$  で、 $\sin\theta = \frac{2}{3}$  のとき、 $\cos\theta, \tan\theta$  を求めなさい。

$$\cos\theta = \frac{\sqrt{【1】}}{【2】}, \tan\theta = \frac{【3】\sqrt{【4】}}{【5】}$$

【1】 :

【2】 :

【3】 :

【4】 :

【5】 :

### 問題 2

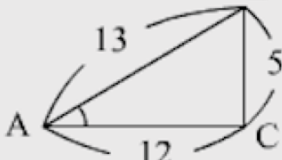
未解答

最大評点 6.00

▼ 問題にフラグを付ける

✳ 問題を編集する

B 左の図のような三角形において次を求めなさい。


$$\sin A = \frac{【1】}{【2】}, \cos A = \frac{【3】}{【4】}, \tan A = \frac{【5】}{【6】}$$

【1】 :

# 演習の例 (Solomon)

独自のWebシステム (後述) で利用

キャリア支援 > SPI対策 > 言語能力問題 > 二語の関係

二語の関係 (進捗率: 0% )  自動的

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	>>
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

次の二語の関係を考え、同じ関係のものを選びなさい。

扇風機：羽

A 大工：建築  
B 日傘：遮光  
C 自転車：タイヤ  
D セメント：コンクリート

D

次のヒント1/3

キャリア支援 > SPI対策 > 言語能力問題 > 二語の関係

二語の関係 (進捗率: 0% )  自動

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	>>
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

扇風機：羽

→部分の関係 「羽は扇風機の一部である」

A 大工：建築  
→仕事の関係 「建築は大工の仕事である」

B 日傘：遮光  
→用途の関係 「遮光のために日傘を用いる」

C 自転車：タイヤ  
→部分の関係 「タイヤは自転車の一部である」

D セメント：コンクリート  
→原料の関係 「コンクリートの原料はセメントである」

# 解説の例

標準数学 > 高校1年 > 2次関数 > 2次関数の最大・最小

式に文字係数を含む2次関数の最大・最小

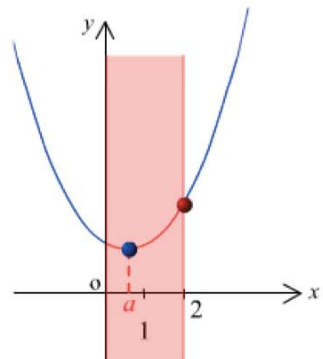
自動的に拡大縮小する

## ■ 式に文字係数を含む2次関数の最大・最小

$$y = x^2 - 2ax + a^2 + 1$$



$$y = (x - a)^2 + 1$$



$$0 \leq x \leq 2$$
$$0 \leq a < 1 \text{ のとき}$$

2次関数の方程式の係数に文字が含まれる場合

例) 2次関数  $y = x^2 - 2ax + a^2 + 1$  ( $0 \leq x \leq 2$ )  
の最大値・最小値を求めましょう。

左の図からわかるように、 $a$  の値によってグラフは移動し  
1つに定まりません。(頂点は  $(a, 1)$ 、軸は  $x = a$ )

そこで、 $a$  の値で場合分けをして最大値・最小

また、 $y = f(x) = (x - a)^2 + 1$  とおきます。  
このとき、たとえば  $f(0)$  は、 $y = (x - a)^2$   
 $x = 0$  のときの  $y$  の値を示します。

(I)  $a < 0$  のとき

## 01. 基本事項



## ▼ 2. 総和

a.  $\sum$  の意味 :

$$\sum_{k=1}^5 a_k = a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + a_5, \quad \sum_{k=1}^n a_k = a_1 + a_2 + \cdots + a_n$$

b. 自然数のべき乗の公式 :

$$\sum_{k=1}^n k = \frac{n(n+1)}{2}, \quad \sum_{k=1}^n k^2 = \frac{1}{6} n(n+1)(2n+1), \quad \sum_{k=1}^n k^3 = \left( \frac{n(n+1)}{2} \right)^2$$

### 例題 2-1

$\sum_{k=1}^5 (2k+3)$  の値を求めよ。

解答を開く

閉じる

# 到達度テストの例

## 問題 1

- $(\sqrt{6} + \sqrt{2})(\sqrt{6} - \sqrt{2}) = \boxed{\text{ア}}$  である。
- $(x^4 - 3)^2 = x^m - 6x^n + 9$  とするとき、 $m = \boxed{\text{イ}}$ 、 $n = \boxed{\text{ウ}}$  である。
- $x^2 - 2x - 35 = (x + \boxed{\text{エ}})(x - \boxed{\text{オ}})$  である。
- 次の問いに答えよ。

(1)  $x = 20$  のとき  $y = 10$  であり、 $x$  の値が 4 増加するとき

$$\text{式は } y = -\frac{\boxed{\text{カ}}}{\boxed{\text{キ}}}x + \boxed{\text{クケ}} \text{ である。}$$

(2) 2点 P(10, 81), Q(20, 151) を通る直線の方程式は  $y =$

### 問題 1

未解答

最大評点 1.00

▼ 問題にフラグを付ける

✳ 問題を編集する

情報が持つ性質として、当てはまらないものはどれか。

1つ選択してください:

- 1 みんなが知っている情報は価値が高い
- 2 情報は複製が可能である
- 3 情報は伝達できる
- 4 情報は人により価値が異なる
- 5 わからない

### 問題 2

未解答

最大評点 1.00

▼ 問題にフラグを付ける

✳ 問題を編集する

出力装置であるものはどれか。

1つ選択してください:

- 1 CPU
- 2 キーボード
- 3 プリンタ
- 4 ハードディスク
- 5 わからない

マークシートは スキャネット SN-0017 を想定

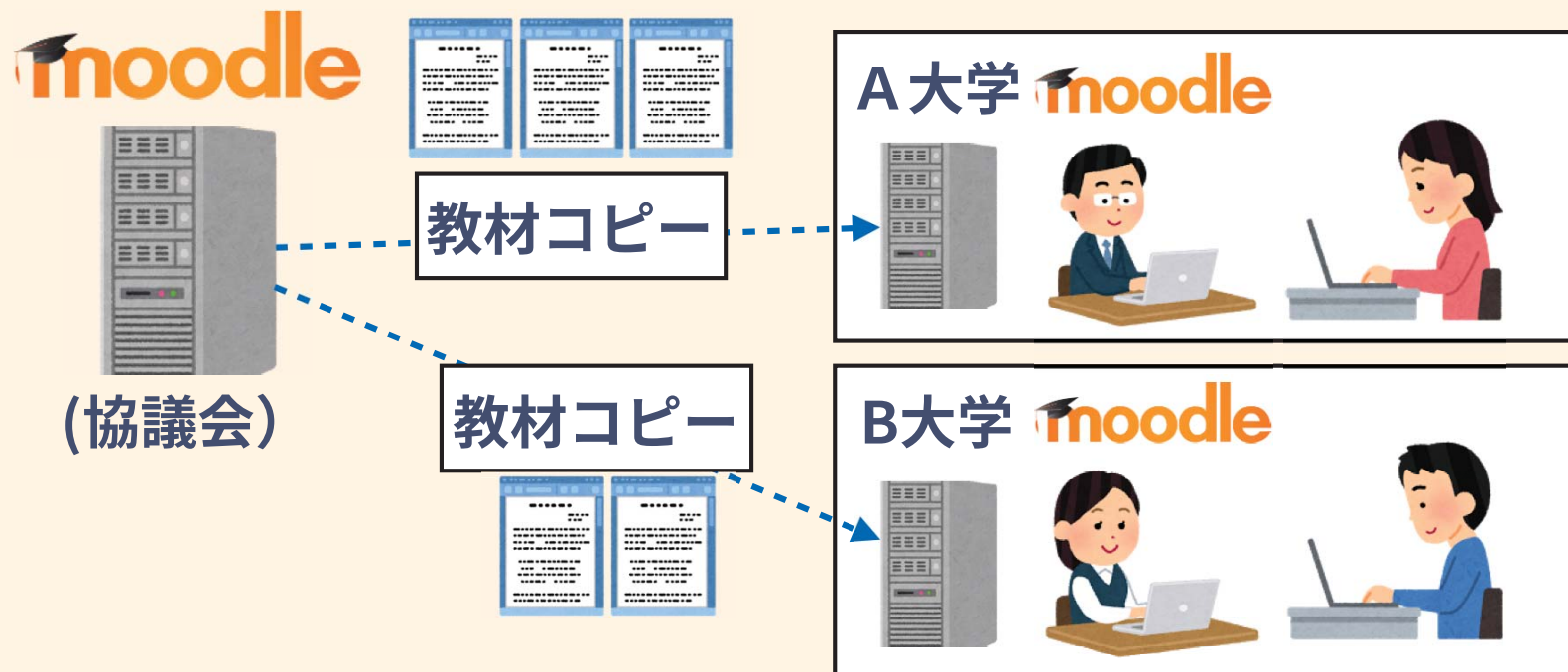
# 教材の共有・利用 (共通基盤教育システム)

# 教材の共有・利用方法

- Moodleバックアップでの利用

<https://pubmdl.uela.cloud/moodle25/>

各大学が運用するMoodleに、コースをコピーして利用  
(Moodleは ver2.7 以降を想定)



※ Moodle, Solomonのいずれかのみ公開を行っている教材があります。  
SCORM(v1.2) 形式で配布が可能な教材もあります。

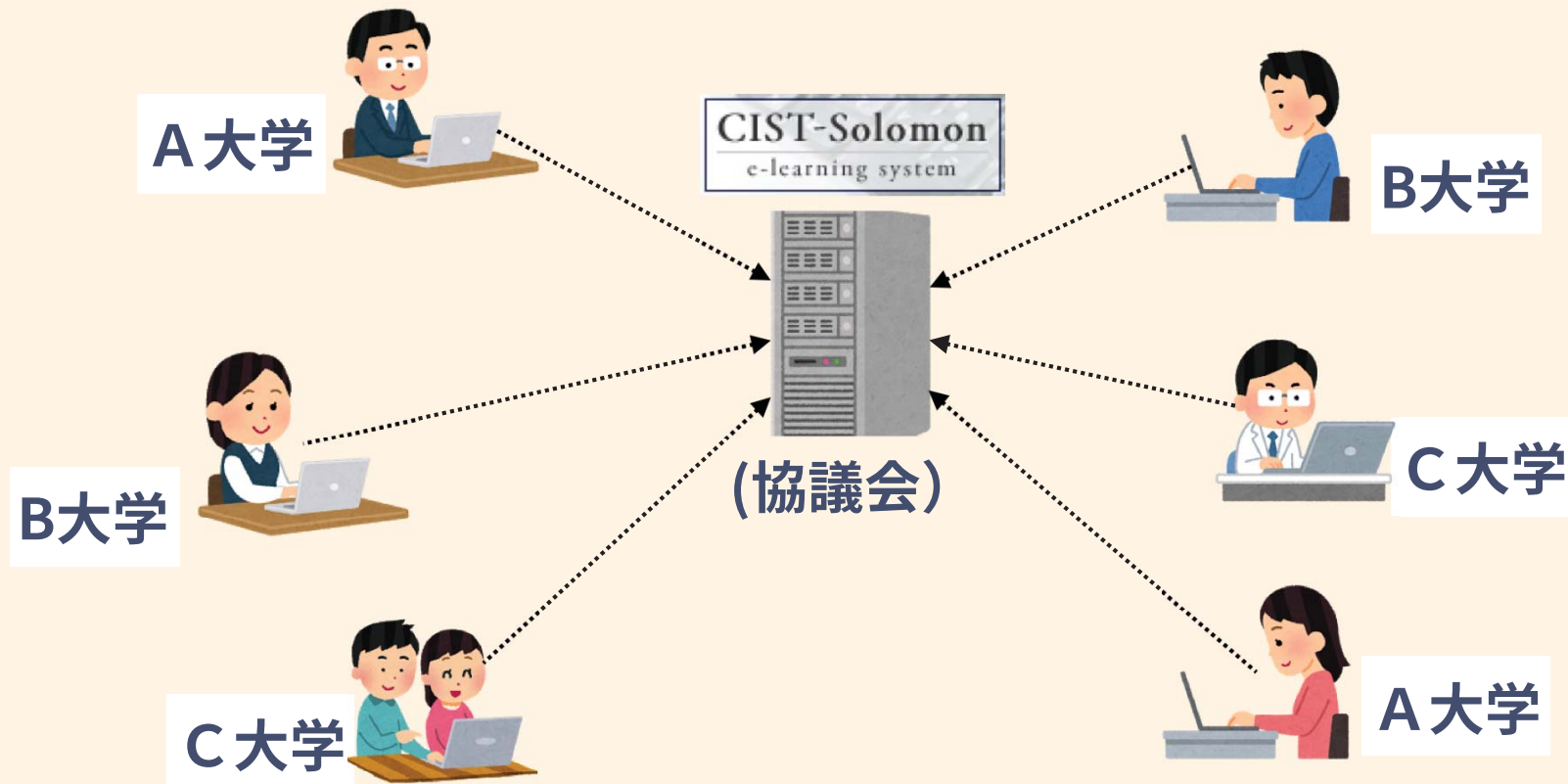


# 教材の共有・利用方法

- 共通基盤教育システム(Solomon)での利用

<https://solomon.uela.cloud/>

協議会が運営する独自のeラーニングシステムでの利用  
大学ごとに学生のユーザや学習管理を行う



※ Moodle, Solomonのいずれかのみ公開を行っている教材があります。  
SCORM(v1.2) 形式で配布が可能な教材もあります。



# 共通基盤教育システム (Solomon)

学生が教材を使って学習できるeラーニングシステム

協議会から大学用管理アカウントを配布  
各大学は教員・学生ユーザを管理し利用

大学間連携共同教育推進事業  
共通基盤教育システム  
大学eラーニング協議会 (千歳科学技術大学、山梨大学、愛媛大学、佐賀大学、北星学園大学、創価大学、愛知大学、桜の聖母短期大学)

**このシステムについて**  
利用マニュアル  
FAQ

**システム利用条件**  
**オペレーティングシステム**  
OS X Leopard+  
Windows 7  
Windows Vista SP2  
**ブラウザ**  
Google Chrome 18+  
mozilla Firefox 10+  
Safari 5+  
Internet Explorer 9+  
**ブラウザプラグイン**  
Adobe Flash Player 9+  
Shockwave Player 10+  
**ブラウザの設定**  
javascriptを許可

**ログイン**  
アカウント  
Type account name...  
パスワード  
Type password...  
リセット ログイン

**開発チーム**  
千歳科学技術大学  
情報・メディア教育センター  
小松川研究室

**お知らせ**

提示日時	更新日時	タイトル
通知 2015.02.06 15時28分	2015.02.13 23時02分	[終了]メンテナンスに伴う、システムの停止について (02/13 18:30 ~ 0:00)

**リンク**  
Get ADOBE® FLASH® PLAYER  
Get ADOBE® SHOCKWAVE® PLAYER

Copyright © 2015 Chitose Institute of Science and Technology & University e-Learning Association, Powered by CIST-Solomon

# Solomonの主な機能

## 学生側機能

- ・ コースに取り組む

- ・ 自由に教材に取り組む
- ・ 自らの取組履歴を確認する

## 教員側機能

- ・ アカウントを管理する

- ・ コースを登録する
- ・ 学生の取組履歴を確認する

※Solomonのコースは、対象学生、期限、教材を選んで学習指示できる機能

The screenshot shows the Solomon LMS interface. The top navigation bar includes 'ホーム', 'コース', '通常学習', '学習状況', '設定', and 'ログアウト'. The left sidebar shows a tree view of course content under '演習一覧', including '標準数学', '語学', 'キャリア支援', 'SPI対策', '言語能力問題', '二語の関係', '扇風機：羽', '語句の用法', '語句の意味', '熟語の成り立ち', '文脈の並び替え', '文の並び替え', '非言語能力問題', and '言語(日本語)\_mobile対応'. The main content area displays the course 'キャリア支援 > SPI対策 > 言語能力問題 > 二語の関係'. Below this, there is a progress bar for '二語の関係' (進捗率: 0%) and a grid of question numbers (1-15). The question content asks to identify the relationship between '扇風機：羽' and other items. The options are: A 大工：建築, B 日傘：遮光, C 自転車：タイヤ, D セメント：コンクリート. The correct answer 'D' is highlighted. At the bottom, there are buttons for '次のヒント1/3', '解答する', and '関連する教科書を表示'. Navigation buttons for '前の問題へ' and '次の問題へ' are also present.

演習

演習	進捗率 (%)	正解 (回)	不正解 (回)	ヒント (回)	合計時間 (HH:mm:ss)	評価
総演習数：385	平均進捗率：0.0	総正解数：1	総不正解数：3	総ヒント数：3	総取組時間：00:02:15	
整式とその加減	0	0	0	0	00:00:00	
整式の乗法	0	0	0	0	00:00:00	
因数分解	0	0	0	0	00:00:00	
実数	0	0	0	0	00:00:00	
平方根	0	0	0	0	00:00:00	
方程式と不等式(1次不等式)	0	0	0	0	00:00:00	
方程式と不等式(2次方程式)	0	0	0	0	00:00:00	
(応用) 整式とその加減	0	0	0	0	00:00:00	
(応用) 整式の乗法	0	0	0	0	00:00:00	
(応用) 因数分解	0	0	0	0	00:00:00	
(応用) 実数と絶対値	0	0	0	0	00:00:00	
(応用) 平方根	0	0	0	0	00:00:00	

# Solomonの「コース」

- 対象の学生に、期限と教材を選んで学習を指示できる機能  
(つまり、課題)
- 課題ごとに、学生の取り組みを管理できる
- 課題形式のものならば、様々な取り組みに利用できる  
(例：授業内外の課題、入学前教育、長期休業期間の宿題…)

# コース（授業内外の課題の設定イメージ）

[コース]  
数学基礎  
(4/1~8/1)

[授業]1 4/1 13:00~15:00 到達度テスト

[授業]2 4/1~4/8 正の数・負の数

[授業]3 4/8~4/15 二次関数の最大最小

- 
- 
- 

[授業]n 7/24~7/31 テスト対策（全範囲）

※教員がコースを設定すると、学生のコース機能に反映される  
学生は自らに設定されたコースに取り組める

# コースの取り組み管理で みえてくること

- 学習の習慣の有無
- 学習への取り組み方（経過）
- 失速/復調の有無
- etc...

eラーニングシステムを導入することで、  
自然と学生の学習が進むわけではない

学生個々の経過を把握しやすくなるツールとして活用  
⇒ ツールから得た情報を元に学生にアプローチ

# コース利用例：入学前教育

- 推薦入学者などにアカウントを配布し、入学時に向けて学習してもらう
- 学習管理を行い、取り組み状況が悪い入学者にはコンタクトを取る  
(例：メール・定期的な登校日)
- 到達度テストなどと組み合わせ、入学者の学力のある程度の把握を狙う例もみられる

# 入学前・初年次教育による 代表的な利用形態

# 形態A： Moodleのみを利用

入学前教育：各機関既存のMoodleを利用

初年次教育： 同 上

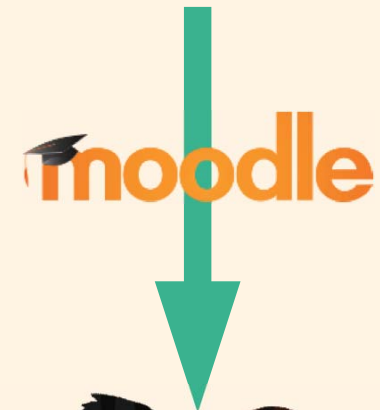
メリット：

入学前と正規のカリキュラムで学習履歴を一元管理でき、学習経過の把握や追跡が容易

デメリット：

入学前の生徒にアカウント発行を要する  
⇒ユーザ管理や認証について技術面や運用ポリシーとの整合が必要

全学的なカリキュラムでMoodleを利用する基盤や方針が整っている機関が主に採用





# 形態B：Solomon, Moodleの分担利用

入学前教育：協議会のSolomon

初年次教育：各大学のMoodle・その他LMS

メリット：

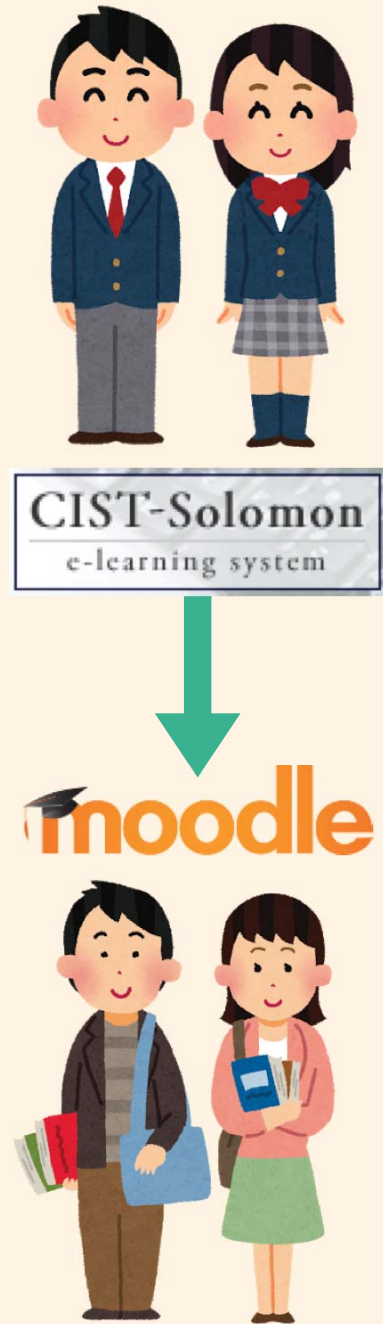
入学予定者はSolomonで独立して学習

各大学の既存のMoodleや認証システムへの影響を抑えて入学前教育を実現可能

デメリット：

入学前後でシステム（学習管理方法）が異なるため、入学前後の学習経過の把握にはデータの突き合わせが必要

入学前教育を一部の学部・担当部局が別に企画・実施する方針の機関が主に採用



# 形態C： Solomonのみ or 既存システムとの併用

入学前教育：協議会のSolomon

初年次教育：協議会のSolomon（一部他を併用）

## メリット：

LMSの導入準備をせずに、共通教材と学習履歴の管理が可能な環境を実現

環境を変えずに入学後のリメディアルも可能

## デメリット：

併用の場合は、大学のものとは別に  
学生が複数のアカウントを使い分ける必要性

全学的なeラーニングの体制・環境が整備されていない機関、一部科目・授業・資格対策等でのニーズをもつ機関が主に利用



# 2019年度の主な予定

- 解説の拡充 (CHiLO Book)
- 脱Flash化を行った解説 (中学・高校数学) の Moodle側への反映
- Moodleのバージョンアップ  
(v2.7 ⇒ v3.x, 検討開始、実施)

# 試用、利用の問い合わせ先

- **大学eラーニング協議会 事務局 (e-mail)**  
[uela\\_offices@googlegroups.com](mailto:uela_offices@googlegroups.com)
- **大学eラーニング協議会**  
<https://www.uela.cloud/>
- **eラーニング共通基盤推進事業**  
<https://www.uela.cloud/el-kiban/>

「共通基盤教育」eラーニングについて（アンケート案）

御校にて「共通基盤教育」eラーニングを活用されましたか。 \*

活用した

活用しなかった

「活用した」場合、教材の内容を全て教えてください。また、「活用しなかった」の場合は理由を教えてください。 \*

2022年度、貴校にて「共通基盤教育」eラーニングを試行活用を希望しますか。 \*

活用する

活用しない（次の質問にもご回答ください）

その他：

今後も「活用しない」理由を教えてください。

2022年度におけるICTを活用した学修機会の提供に向けた提案やご意見をあれば、お聞かせください。